

中三国語科通信

第1号
令和3年8月17日
国語科3年担当
堀之内・狭間・日高



昼下がり緑かがやくオリブの
葉とたわむれてキアゲハの舞う

NIEに取り組んでいます。

今年度、本校はNIE(新聞活用教育)認定校となっています。

その活動の一環として、「十四歳の君へ」と題した著名人のコラム(共同通信社提供)に対する感想を宮日新聞社に送り、毎月一、二名の文章が掲載されています。このコラムによつて、今社会で活躍している人が、どんな思春期を送り、どうやって人生の選択をしてきたかを知ったり、全く考えもしなかったような視点を与えられたりしています。宮崎という地方の、さらに学校という小さな社会で生きている中学生にとつて、とても刺激的な文章だと思えます。その刺激を受けて、自分の中でどんな変化があったかに焦点を当てた感想が選ばれているようです。時には、筆者の考えに異論を述べるのもありだと思えます。字数が少ないため、かえって難しい面もあります。が、余計な内容や表現をそぎ落として、何が言いたいのかわかりやすく書くためのいい訓練になります。次回も秀作を期待しています。



〈5月4日掲載〉

DJ 小林克也

【英語】

- ・物の見方、夢広げる道具に
- ・繰り返し聴くとい
- ・スマホで勉強できる
- ・夢を広げる道具になる

一組 松村優里



英語が好きでいろいろなことに挑戦していた小林さんがうらやましい。私は好きなことをさせてもらえていないわけではない。むしろ好きなことばかりしている。楽しいこと、楽しいことばかりを選んで、頑張ることから逃げていた自分を見つめ直そうと思えた。

〈7月19日掲載〉

評論家 荻上チキ

【社会】

- ・「いじめ減らす学校環境に」
- ・みんなで決める制度学ぶ
- ・学校は不思議な空間
- ・おかしいなら他の方法も

二組 平田遥仁



「社会科」を社会が動く仕組みなどを知ることではなく、自分がいる環境を変えるということに活用するということに驚いた。ある一つのものでも違う面から見ればもう一つの使い方があつた。そういうようなものを見抜く目を持ち、うまく使える知識、技術を持てるようになりたい。

〈6月11日掲載〉

精神科医 名越康文

【道徳】

- ・「いじめから『まず逃げて』」
- ・好きなことに没頭しよう
- ・つらい時期はいつか終わる
- ・人との共感が大事

三組 村山 寧



「いじめは最悪の犯罪」という言葉に重大さをあらためて実感した。いじめをする人にも、それを見るだけの人にもなりたくない。人の短所も個性だと思えるくらい心の広い人になりたい。そして、つらいことを紛らわせる、好きなことを早く見つけた。友達を今よりも大切にしようと思つた。

〈6月11日掲載〉

三組 狭間 二葉



私は中2以降から、よく対人関係で悩んできた。正直、「なんでこんなことと悩んでいるんだろう」と思ったこともあつたが、名越さんが言うように「一生を通じての悩み」のほんの一部だと思えば、少し気持ちが軽くなつた。これからは自分を第一に、かつ人のことも考えて、良い対人関係を目指していきたい。

百人一首大会 7/28



「夏の終わりのキックオフ」

日高由里子

先日、娘に言われました。「おたあしちゃん、にいにいがしゆくたいをがらまえたからおこつたの?」

……なんですと!

私は宿題を間違えた息子を怒ったことなんかない。いや、少しはあるかもしれないが、それは3×5=15と書くような不注意に対してであつて、……なんて言い訳ですね。母、猛省。

これを受けて、はつとしたことが二点ありました。一つは、娘が二歳にして「がちまえたからおこられる」と思っていること。もう一つは、息子に私の意図がきちんと伝わっているのだからかということ。これからは「プロセスをちゃんと見てるよ」と丁寧に伝えよう」と心に決めました。

まもなく二学期スタートです!